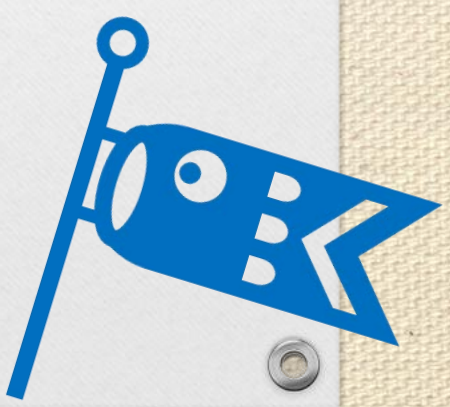
東松島市　復興支援
これから津軽三味線部による令和元年度私立高校生震災復興・創成活動事業の報告を始めます。
前回と同じ土地での復興支援活動でしたが、今回は被災者の方々の気持ちに寄り添うことはもちろん、ねぶたなどを演奏し、活気づけることを目的としていました。
さらに、前回と大きく異なる点は被災者の方々とより深く関わったことです。
演奏前日には、被災者の方々と一緒に夕食を食べました。
実際に被災していた時に食べていたものを用意していただき、普段の食事のありがたさや贅沢さを体感することができました。
また、被災者の方々は私たちと一緒に食事をすることを本当に喜んでくれていて、温かい笑顔とお話がすごく印象的でした。
その日の夜には「青いこいのぼりプロジェクト」の創設者である伊藤健人さんや健人さんが通っていた学校の教頭先生が当時のお話をしてくれました。
当時の状況や感情を動画なども用いて本人から聴くことは、心に重くのしかかり、自分たちがいかに幸せであるかを痛感することに繋がりました。
やっぱり実際に被災地に行き、お話を聞くと、テレビや文字で知るよりもリアリティがあって深刻なものなのだと感じました。
そしてその日は寝袋を使って寝て、被災の体験をさせていただきました。
普段とは違う狭くて十分に温かくはない環境を体感し、被災の辛さを知りました。
演奏前日の生活を通して、普段の生活とのギャップを感じ、同時に自分たちがもし被災する立場になったら耐えられるのだろうかという不安も感じました。
演奏当日はたくさんの方が聞きに来てくださりました。
この日のメインは青森県の名物、3 大ねぶたを演奏することでした。
前日のお話で「被災者の方々は太鼓の音が津波の音に似ているから怖いと思っている」ということを聴いていたので少し心配だったのですが、演奏するとみんな笑顔で楽しそうに聞いてくれていたので私たちも嬉しく思いました。
帰り際には「また来てね」「すごく上手だったよ、ありがとう」などの温かいお言葉をいただき、私たちも温かい気持ちで復興支援活動を終えることができました。
今回の活動を通して、前回よりも「東日本大震災」という忘れてはいけない出来事に踏み込んだことで被災者の方々の思いや不自由さ、温かさや力強さに触れられ、自分たちがどれほど幸せなのかということを考えるきっかけになりました。
しかし、自分たちがいつ震災にあうかどうかわかりません。
だからこそ、毎日後悔しないように、誰かの活力になれるように行動していこうと思いました。
これで津軽三味線部による令和元年度私立高校生震災復興・創成活動事業の報告を終わります。

宮城県東松島市での復興支援活動

津軽三味線部



青い鯉のぼりプロジェクト代表
伊藤健人さん

出身：宮城県石巻市
特技：和太鼓

現在は、子供の頃から和太鼓を演奏していたため、和太鼓ユニット「閾（いき）」などで演奏活動を行っています。

青い鯉のぼりプロジェクトについて

きっかけ

I.　津波で命を失った家族4人の想いが届くように
II.　生き残った自分の道しるべになるように

目標

１００年後も続く取り組み

にすること

復興支援活動の内容

地域の人々とのふれあい

寝袋体験

三味線部演奏

Momoha

あおい

青い鯉のぼりプロジェクト

さあ、今年も青い鯉のぼりを天高く！

www.ryukoutengoku.info/koinobori.html
https://www.facebook.com/aoikoinobori

律が楽しみにしていた鯉のぼり今年も空高く揚げてやるよ…

（弟／りつ享年5才）

2011年3月11日14時46分。1000年に1度と言われる大地震が東北地方を襲った。内陸部は震度7を記録し、大地は大きく地割れし太平洋沿岸部にはかつて経験した事の無い大津波で街は何もかも流されてしまい尊い命が何万と失われた。幸い仙台にいた僕、体調を崩して病院にいた父、学校にいたすぐ下の弟は無事だった…が、この津波で母、祖父、祖母は未だ行方不明。5歳の弟は遺体となって見つかった…。地震後必死に年老いた祖父母と幼い律を連れて津波から逃げた母。父との電話で話してる最中通話は突然切れた…後日特徴が似てると連絡があり、遺体安置所に行くとそこには冷たくなった律が…冷たくて動かないけれどその顔は本当に寝ているみたいだった。夢だよね？これ覚めるんだよね？何度も自分に問いかけた。まだ見つからない母や祖父母を探し瓦礫をいくつも、いくつも避けても変わらない時間だけが過ぎて行くその風景の中で泥だらけの「青い鯉のぼり」が出て来た…。

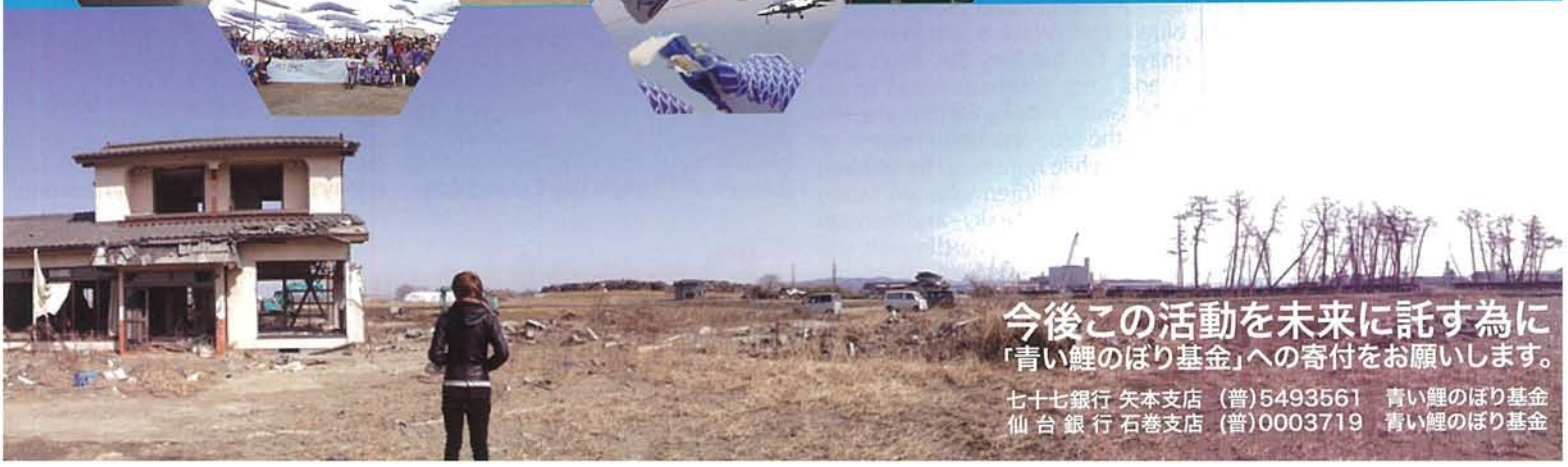
律は年の離れたかわいい伊藤家のアイドル！やんちゃで、お母さんが大好きで一時も離れない甘えん坊。鯉のぼりは僕等上の兄弟の時より大きな本家からのプレゼント。自分の鯉のぼりでもないのに喜んでたっけ…。前日インターネットでフラダンスの動画を見て戯ける律は、当たり前の日常を幸せと思わせてくれる。そんな笑顔だった。

その時確かに聴こえたんだ。「健ちゃん！今年もお空に律の鯉のぼり高くあげてね」って…。僕は家の仕事もそっちのけで鯉のぼりを近くの川で洗い、母や祖父母達への思いも乗せ次々と出て来た鯉のぼりを家の在ったあたりに空高く揚げた。「律！見えるか！」天高く揚げた鯉のぼりが喜んでるかのように風にのって体をくねらせ泳ぎ始めた。

▶鎮魂の祈り　使わない青い鯉のぼりを私たちに託してください。津波の犠牲になった子供達が天国から見えるように青いっぱいの鯉のぼりを揚げます。

▶家族の絆　ご家庭で鯉のぼりを揚げた時、鯉のぼりを見かけた時、災害時の家族の避難場所や連絡の取り方などを確認する日にして行きましょう。

▶ふるさと再生　5月5日には東松島に観に来て、みんなで語らいましょう。やがて、この想いが祭になり未来まで続くように…



今後この活動を未来に託す為に

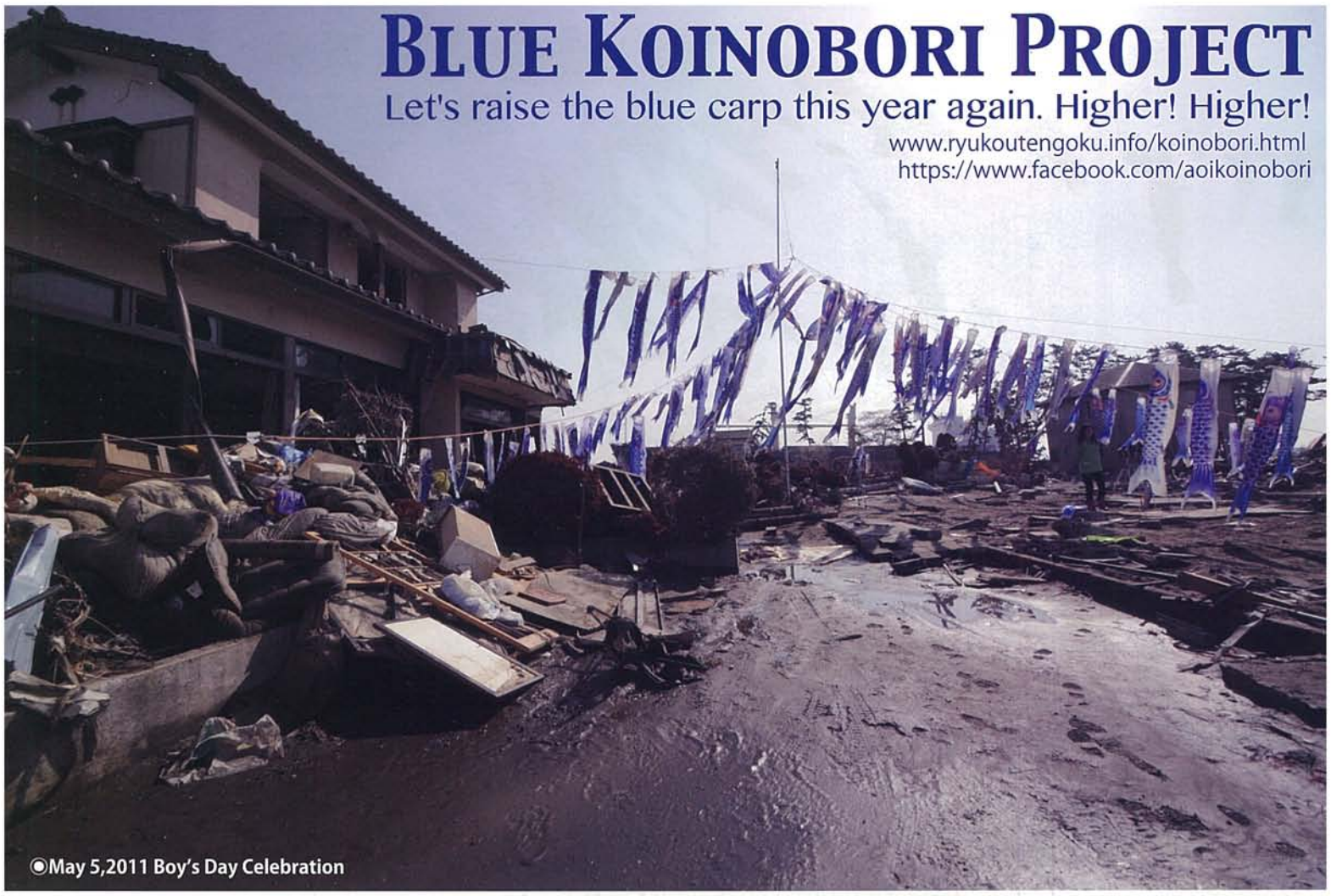
「青い鯉のぼり基金」への寄付をお願いします。

七十七銀行 矢本支店　（普）5493561　青い鯉のぼり基金
仙台銀行 石巻支店　（普）0003719　青い鯉のぼり基金

BLUE KOINOBORI PROJECT

Let's raise the blue carp this year again. Higher! Higher!

www.ryukoutengoku.info/koinobori.html
https://www.facebook.com/aoikoinobori



◉May 5,2011 Boy's Day Celebration

On March 11, 2011 at 2:46 PM the Tohoku region of Japan was hit with a magnitude 9 earthquake, followed shortly by a great Tsunami that swept away many cities along with many lives.I was in Sendai, about 60 miles away, with my father and brother, and was away from the dangers of the tsunami.However, my home town, a harbor city, 60 miles north of Sendai, was not.Shortly after the great tsunami, my 5 year old youngest brother Ritsu's body was found. My mother, grand father and grandmother were missing."This is a bad dream and I need to wake up." I repeated to myself as I dug through the pile of the mud where our house once was. That was all I could do to bear the passing of time but that was when I found a Blue Carp flag(Koinobori) I thought, "Ritsu wants to raise his Koinobori on the Boy's Day celebration". Koinobori are a symbol of boys'prosperity and healthy growth in Japan, and I remembered how much Ritsu loved the May 5th Boy's Day celebration. I continued to dig, and found 3 more flags - to complete the Carp family, set of 4.I took the flags to the river and washed the mud away from them, then found a pole to raise them for my lost family members."Ritsu, this is for you", I whispered as I anchored the flag poles. The Koinobori started to swim gracefully in the sky, free and unencumbered, above the massive muddy pile of debris.Legend has it that a Koinobori became a dragon when it continued to swim up and reach for heaven.Blue Carp flags represent children, while a black one is the Father and the red one, Mother. It became my mission to collect and raise as many blue carp flags as possible for all the children who were lost in this tragedy. I wanted them to sail freely in the limitless sky.

This letter was the beginning of the Blue Koinobori Project. Kento Ito was 17 years old when this mail went viral on internet and brought many people together to this project. The blue koinobori were sent in from all around Japan, from Hokkaido to Okinawa. On the May 5th, Boy's Day, volunteers gathered from local cities and from Southern Japan to his hometown.It's been three years since the Great Tohoku Earthquake. We believe that we must to continue on with the Blue Koinobori Project, to keep giving hope to children who survived, while honoring the children who are no longer with us, and also to all the children who are facing natural disasters.No matter where we are, we share one sky - and through this sky, we are all connected.Though the Tohoku earthquake will become a the thing of the past, we have learned the force of nature, the compassion of people, and to never take any day for granted.We don't want to forget or to put away the lessons we learned as just part of a history but to pass the story along with a hopeful outlook to the next generation.We are looking forward to raising our blue koinobori into the wide blue sky of California to honor those who were lost in Tohoku and to all the children of the world.

◉May 5,2011 Boy's Day Celebration

◉May 5,2012 Boy's Day Celebration

◉May 5,2013 Boy's Day Celebration

◉May 5,2014 Boy's Day Celebration

◉May 5,2015 Boy's Day Celebration

◉May 5,2016 Boy's Day Celebration

Donation, please.

七十七銀行 矢本支店 (普)5493561 青い鯉のぼり基金
仙台銀行 石巻支店 (普)0003719 青い鯉のぼり基金